

1. 特集

□ 公用電気自動車のカーシェアリング



本市では、平成24年2月から、電気自動車5台を職員と市民で使用するカーシェアリングを実施しています。

市が公用車として車両を導入するのではなく、民間事業者が導入した車両を平日は職員が公用として使用し、休日は市民が使用できる仕組みとするほか、全日職員と市民が共同利用できる車両も導入しています。この事業を通じ、新たな公用車の利用方法を検討するほか、カーシェアリングを普及促進させることで、市内総車両台数の削減をすすめています。

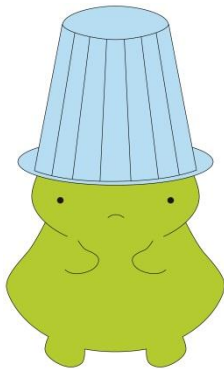
また、電気自動車専用の200V（倍速）充電装置を、広くユーザーが使用できるように設置する事業者に対し、設置費用の一部を補助する施策を実施しています。

電気自動車導入数：5台

(EV専用ステーション：庁舎周辺に設置)



□ ごみ減量マスコットキャラクター「ムーヤン」



ごみの分別や減量・環境美化に関心を持ってもらい、より多くの人と一緒に取り組むことができる明るく親しみやすいキャラクターのデザイン・愛称を募集したところ、1,135 作品の応募がありました。

デザイナーなどで構成する選考委員により、最優秀賞に市内の中学2年生の作品が選ばれました。

今後は、出前講座(授業)や講習会、各区のイベントなどにも積極的に参加し、市民と協働で啓発活動を行っていきます。



□ 晴美台エコモデルタウン創出事業

泉北ニュータウン内にある小学校跡地を有効活用し、エネルギーを自給自足する戸建住宅（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス[ZEH]）を中心に、環境性能に優れたエコモデルタウンの形成をめざします。全ての住宅と集会所に太陽光発電システムやリチウムイオン蓄電池、エネルギーの見える化などの環境技術を用いて、使われるエネルギーよりも、創られるエネルギーの方が多いい街づくりをめざします。

（集会所でEVをシェアリング）



【 完成イメージ図 】

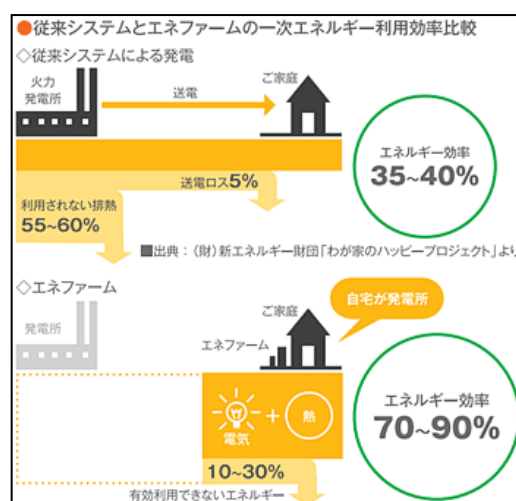


□ 燃料電池コージェネレーションシステム設置費補助事業

太陽光発電システムを設置し、電力会社と太陽光発電に関する電力受給契約を締結している方で、堺市内において、自ら居住する住宅に燃料電池コージェネレーションシステムを設置した方、又は自ら居住するため、燃料電池コージェネレーションシステム付き住宅を購入した方に対して経費の一部を補助する施策を実施しています。（平成 25 年 1 月現在、約 130 件）

燃料電池コージェネレーションシステムとは、都市ガス・LP ガス・灯油などから水素を取り出し、空気中の酸素と反応させて発電するシステムです。エネルギーを使用する場所で発電するため送電ロスが無く、電気と熱を同時に発生・活用するため、エネルギーの総合利用効率が 80%以上と高く、電力は家庭で使用する5割程度をまかなうことができます。

また、太陽光発電システムと燃料電池コージェネレーションシステムを組み合わせることにより、エネルギーの地産地消や自給自足の取組み拡大を図り、住宅のゼロエネルギー化を実現することができます。



出典：一般社団法人 燃料電池普及促進協会 HP
「エネファームについて」より

□ 関西大学との地域連携事業～熊野本宮子どもエコツアー～

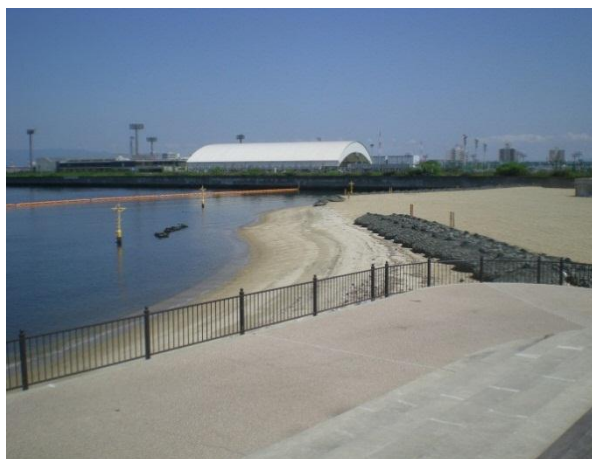
産学民官の連携による新たな環境教育・人材育成事業とし、平成22年10月に開校した「堺エコロジー大学」では、関西大学人間健康学部(堺キャンパス)と連携し、かつて本市と友好都市提携していた和歌山県田辺市本宮地区(旧本宮町)をフィールドに、市民(子ども)×大学生(キャンプリーター)×地域住民(現地指導者)が交流する新しいスタイルの自然体験学習を、平成24年8月24日(金)～26日(日)の3日間実施しました。堺市内在住の小学5・6年生21人が参加し、川での生き物観察や林業体験などを通じて、充実した自然体験学習を行うとともに地域連携の促進にもつながりました。



□ 堺浜北泊地環境改善事業の取組みについて

本市は、国や港湾管理者である大阪府をはじめ、市民・NPO・学識経験者・企業などの多様な主体と連携し、堺浜を含めた大阪湾再生に取り組んでいます。

堺浜の北泊地は、かつて航路として利用されていたことから水深が深く、最深部17mと窪地形状になっており、海水の出入りや交換が少ないことから溶存酸素量が低く、水質が悪い状況にあります。



北泊地では、大阪府港湾計画に基づく浅場化事業により、国によって潜堤が築造されたほか、生物共生型護岸におけるモニタリングや、大阪府による大阪湾の浚渫土を利用した干潟の整備が行われています。

本市においても堺浜の水質改善とあわせて、北泊地の一部に市民が親しめる海浜を造成することで、新たな親水空間を創出し、周辺施設との相乗効果によって、堺浜のさらなるにぎわいを創出します。

まず、平成22年度に潜堤を築造し、平成23年度には大和川の浚渫土等を利用して約5,000㎡の海浜を造成し、現在継続的な水質改善のモニタリング・砂流出対策等についての検討を実施しています。

「J-グリーン堺」及びアミューズメント施設「えんため館」に隣接するこの造成海浜は、「堺浜ふれあいビーチ」として平成25年春にオープンする予定です。